

ハイデルベルク大学「日本語 E メール の書き方」の試みについて

三重大学 地域人材教育開発機構 松岡知津子

三重大学 教育学部 服部明子

本研究では、ハイデルベルク大学の4学期レベル以上の学生対象の選択科目「日本語 E メール の書き方」について、その実践と今後の課題について考察する。

本授業は、ハイデルベルク大学と三重大学の講師交換プログラムによって派遣された日本語講師が、従来の授業内容を一部アレンジし、三重大学の日本語教育専門の学生とのメール交換や筆ペンによる書中見舞いはがき作成などの活動を盛り込んで授業を行った。

課題として、授業担当講師または三重大学生などに実際にメールを書くことが課されていた。本来なら、「メールを書く」というアウトプットにのみ焦点が当たると考えられる本授業であるが、三重大学生から実際に返事をもらい、そこに返事を書く活動を取り入れたことから、「読む」という活動にもつながったといえる。また、本授業は、日ごろ欧米圏日本語学習者に触れる機会が少ない三重大学の学生にとっても、貴重な機会となった。